

中間市民のみなさん、こんにちは
中間市長の福田健次です。

さて、みなさんは「GIGAスクール構想」という言葉をご存じでしょうか。

教育環境にICT（情報通信技術）を整備すると、「授業の効率化」「授業がわかりやすくなる」「ICT機器の使い方を覚える」「他の地域との交流が可能になる」など大きな効果が期待されています。日本の教育水準は、世界的にもトップクラスではありますが、こと、教育におけるICT（情報通信技術）活用の分野では、世界に大きく後れを取っています。この、「教育におけるICT環境の整備」は、国の大きな課題として挙げられています。

そこで、昨年12月、段階的に義務教育9学年の全ての子どもたちがタブレット端末を使った授業を受けることができるような環境を整備する「GIGAスクール構想」がスタートしました。ところが、今年に入り、世界中が新型コロナウイルス感染症の猛威にさらされ、福岡県も緊急事態宣言の対象となり、臨時休業の措置が執られるなど、子どもたちの学習環境に大きな影響を及ぼしました。

このような状況から、オンラインでの学習支援などICTを駆使した学校運営が急速に求められ始め、中間市では、子どもたちがより良い教育環境のもとで学習ができるよう、令和2年度内に市内の全小中学校、全学年へのネットワークの整備とタブレット端末の配付を行うことになりました。

令和2年度に入り、中間市に最適なICT環境についての検討を続けてきました。学校にネットワーク環境を整備するうえで最も大切なことは、授業で大人数が同時に動画などを閲覧できるような高速通信が可能であること、そして、有害なサイトや画像などを閲覧できないような強固なフィルタリングという仕組みや、外部の者が容易にアクセスできないようなセキュリティを構築することです。

いよいよ、この11月から、全ての学校に新たにネットワーク環境を整備する工事が始まることになりました。来年3月には工事が完了する予定です。

こうして「GIGAスクール構想」を実現し、すべての子どもたちが真に時代に合った、そして時代を拓く教育を受けられるよう取り組んでまいります。中間市で学ぶ子どもたちの成長にご期待ください。

令和2年11月13日
中間市長 福田 健次